勿凝学問 155

偉くなるための報道と世のため人のための報道
社会保障国民会議の年金シミュレーション報道が解禁されて後

2008 年 5 月 24 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

今週月曜日、社会保障国民会議の雇用・年金分科会で年金シミュレーションが公開された夜。メディアの友達と電話で話す。

「先生、これ、どういうふうに報道すればいいんですかね？」
「偉くなりたいなら、対立を煽るように書けば良し。
世のため人のために働きたいならば、報告書から読み取れる事実、今日の雇用・年金分科会のようすを淡々と書けば良し。」

彼は、淡々と事実を書いたらしい。
そうすると、租税方式命！と信じ切っている人たちや年金を政争の具としている人たちからクレームがたくさんきたらしく、彼は「先生のおかげで、おもしろかったです。俺は事実を書いたんだから何も間違えたことをしていない――」と喜んでいた（笑）。

20 日朝刊をはじめとしたその後の報道では、僕があまり知らない人の中には、偉くなりたそうな記事を書いていた人も見受けられたけど[i]、知っている人は、世のため人のためになる記事を書いていた。

みんなの無事を祈る。

---

[i] 20 日の『朝日新聞』時時刻刻、僕はあんなこと言ってないよっとクレームを一つ。だいたいもって、僕は誰からもインタビューを受けておらず、僕が「お金」などという日本語を使うはずがないし、「（税方式への移行は）お金がかかって難しい」などとセンスのないことを言うはずもない。「国民の皆さんのご判断に資する一つの材料を準備しただけです」としか答えないに決まっているだろう。そして社会保険支持という日本語は、いま、現状肯定というニュアンスを持っているから、現行制度を痛烈に批判している僕に、社会保険支持派というレッテル貼りはやめておくれと、なんど言えば分かるのやら（勿凝学問 134 社会保険方式論者ねぇ、まぁ、悪くはないけど違和感はあるね）。それに悪いが、年金に租税を投入するのも大切なんだよ〔勿凝学問 140　悪いね、僕は１／２租税方式論者に転向す

るよ〕。
　それと、塩川正十郎氏の「“数字の遊戯だ。実体とはちょっと違う”と切り捨てた」という文章は、なんのためにあるんだ。毎回何かを発言される塩川氏は、あの日の会議では一言も話をしていない。塩川氏の発言は「会議後、記者団に」と書いてあるけど、塩川氏が、どんなふうにシミュレーションと実体の違いがあると考えたと、記者であるみなさんは理解しているんだ。もし塩川さんが「実体とはちょっと違う」と発言されたのであれば、「どのようにですか？」と問うべきだろうし、その点が分からないのであれば、塩川氏の言葉は文面にして記事にするべきではないだろうね。とにかく理解に苦しむ記事だな、あの日の時時刻刻は――世のため人のための報道の間逆の記事。
　同様に――これは朝日の記事とは関係ないけど――たとえば民主党の小沢代表が「まったく信ぴょう性のない、役所の都合のいい議論」と発言したら、記者であるみなさんは「なにを根拠に、まったく信憑性がないと判断されるのですか？」と問うべきだろう。メディアにダマされないようにリサーチリテラシーをわたくしから叩き込まれているうちのゼミの学生ならば、「数字の遊戯だ、実体はちょっと違う」とか「まったく信憑性のない、役所の都合のいい議論」などの発言を耳にすると、「そう思われる根拠は？　使用されたデータは公開されているのですから、もちろん“実態に合う試算”や“信憑性のある試算”を行われるつもりでしょうね。おおよその結果が出ているからそのような発言をされるのでしょうから、その結果は、今週末にでもみることができますよね？」くらいの質問を反射的にするだろうし、まして、そうした目下根拠がまったくみえない発言のバイアスを取り除くことなく報道することは、百害あって一利なしだと考えるだろうね――否、根拠もなく年金シミュレーションを批判する人たちの味方をしたかっただけなのか。とにかく、メディアにダマされないようにするために教育しているリサーチリテラシーが欠けている人が、メディア人の中に相当いるというのはシャレにもならない。なにはともあれば、一方がエビデンスベースで論じている場合には、他方もエビデンスベースで対抗させなければ、議論は完全に意味がなくなるという基本を押さえておこう。
　僕の発言に関しては、その日の『読売新聞』のように会議中の言葉を引用するのは可（しかも、あの引用は文面といい文脈といい極めて適切なものだったので thanks a lot , Mr. Ishizaki）。しかし会議中の言葉ではない場合の引用は、僕に事前に連絡してもらわないとね。それが僕が、今後付き合っていくかどうかを決める僕のルールです。みなさんにもみなさんなりのルールがあるように、僕にも僕なりのルールがある。
　昨晩 23 日も、医療問題についてのインタビューに来た記者さんがちょっと不勉強だったので、「何時間でも協力はする。だけど、今回は、勉強して出直しておいで」と、映画 SiCKO の DVD をはじめ必読資料をいくつも渡して帰ってもらった。これも僕のルール。
　最後に。いくつかの新聞で、「厚労省幹部が」とか「厚労省関係者は」が登場して、シミュレーション結果を歓迎するような記事が書かれている。わたくしの場合と同様、本当に彼らが何かを言ったのかどうかは知らないけど、とにかく、「厚労省幹部」とか「厚労省関係者」がこの件に登場するのは止めてもらいたい。今のご時世、「厚労省」の名前が出てきたら、うまくいくこともうまくいかなくなる・・・。このシミュレーションから読みとれるインプリケーションと異なる主張をしてきた人たちは今、やっきになって、厚労省が「省利省欲」を守るために仕掛けたとして――本当は社会保障国民会議がいくつかの省から国民会議に出向してきた参事官を通じて行った――シミュレーションの信頼性を落とす戦略をとっており、残念ながらその論法は今日、一定の効果があるのだから・・・ちなみに、「厚労省の省利省欲」という言葉、その使われ方のピント外れ加減も広く世間に認識されて、今年の流行語大賞になることを心より期待している（笑）。